

3-4		主題	従来型施設における個別ケアの充実に向けた取り組みによる利用者の変化に関する研究	
環境づくり		副題	環境づくりからのアプローチによる個別ケアへの取り組み	
研究期間	8か月	事業所	社会福祉法人 浴風会 南陽園	
発表者：中村 靖（なかむら やすし）		アドバイザー：石田 誠		
共同研究者：南陽園 5階スタッフ				
電話	03-3334-2159	メール	nanyo@yokufuukai.or.jp	
FAX	03-3334-1745	URL	http://www.yokufuukai.or.jp/	

今回発表の事業所やサービスの紹介	浴風会は、大正14年に関東大震災の被災高齢者の援護を目的に設立された高齢者保健・医療・福祉の総合施設です。特別養護老人ホーム南陽園は昭和46年に定員100名で開設され、改築後は定員254名（内ショートステイ12名）となりました。従来型施設で、5階がご利用者38名（内ショートステイ2名）の認知症高齢者の専門フロアとなっています。
------------------	--

<p>《研究前の状況と課題》</p> <p>南陽園5階では、認知症により、日常生活の中で、不安・焦燥、帰宅願望、徘徊、大声、幻覚、妄想といった認知症による周辺症状と思われる状態が見られたり、行動をされるご利用者が多く過ごされています。</p> <p>転倒リスクの高いご利用者も多く、職員のケアは安全面に重点が置かれ、認知症であっても、生活面ではほぼ自立されて日常を過ごされているご利用者が満足していただけるようなケアはあまり実施できていない状況でした。</p> <p>そこで、自立度によってグループを再編成するとともに、日中過ごしていただくリビングを2ヵ所に増やすことで、ご利用者個々の状態に沿ったケアの充実を図るとともに、ご利用者が有する能力を最大限に活用できるように配慮したグループごとのリビングの環境づくりに取り組むことにしました。</p>
---

<p>《研究の目標と期待する成果》</p> <p>この取り組みを行うにあたり目指したことは、南陽園5階で生活されるご利用者全員が安心かつ楽しんで日常生活を送ることがそれぞれにできるようにしていくことです。</p> <p>自立度の高いグループでは、ご利用者の多数を占める女性が、家で暮らされていた時に慣れ親しまれていた場所であるキッチンをリビングに設置し、家事仕事をしていただくことで、日中の生活にリズムを持っていただき、加えてご自身が持っている能力を自然と発揮できる環境づくりをすすめました。</p> <p>自立度の低いグループでは、リビング内に畳のスペースを用意する等、個々のご利用者がそれぞれにあったペースで生活できる環境づくりをすすめました。</p>
--

### 《具体的な取り組みの内容》

以下の3項目について調査を実施しました。

#### 1. 訪問調査

目的：個別ケアへの取り組み、老人福祉施設におけるキッチンの有効活用方法を調査することを目的としました。

訪問日：平成22年7月

訪問場所：グループホーム ひまわり

訪問日：平成22年8月

訪問場所：特別養護老人ホーム 松籟荘

#### 2. ご利用者行動調査

目的：ご利用者の日常生活を記録し、環境づくりを実施したことによるご利用者の心理面、行動面の変化についてセンター方式により調査することを目的としました。

調査期間：平成22年9月～平成23年1月

#### 3. 職員意識調査

目的：「ご利用者のグループ少人数化」「リビングへのキッチン設置」「利用者への介護状況」などの項目について、研究前と研究後の意見の相違を把握することを目的としました。

調査期間：第一次調査 平成22年4月

第二次調査 平成22年9月

第三次調査 平成23年1月

### 《取り組みの結果と評価》

自立度の高いグループでは、キッチン設置後、職員がご利用者に声を掛けて米とぎや食器洗いをしていただいていたましたが、次第に率先してキッチンで仕事をしてくださるご利用者が増えてきました。また、キッチンを中心に自然発生的にご利用者が集まり、賑やかに過ごされるとい変化が見られるようになりました。

自立度の低いグループでは、独立したリビングでの生活のなかで、個々のご利用者に合わせたペースの排泄、食事介助を行えるようになり、転倒リスクも低下しました。

職員は、環境を変えることで、今まで気づいていなかったご利用者の有する能力を活用できることや、個々のご利用者のペースに合わせたケアに繋がることに気づき、環境の重要性への意識が向上しました。

#### 《まとめ》

研究を通し、環境づくりとは物的環境の充実のみを目指すものではないとの結論に達しました。物的環境よりも、ご利用者個々が有する身体能力、認知能力を最大限に活用することができる日々の活動、生活ペースを提供することが、環境づくりの重要な要素であると考えられます。

#### 《参考文献》

認知症の人のためのケアマネジメント  
センター方式の使い方・活かし方

### 《提案と発信》

日常生活の中で、認知症高齢者の方に有する能力を最大限活用していただくには、生活の継続性が大切です。施設においては、ひとりひとりの高齢者の方が慣れ親しんだ環境、慣れ親しんだ行動を可能な限り継続できるよう、ご利用者、ご家族、職員が共に考え、環境を作り上げていくことが不可欠です。

### 【メモ欄】